

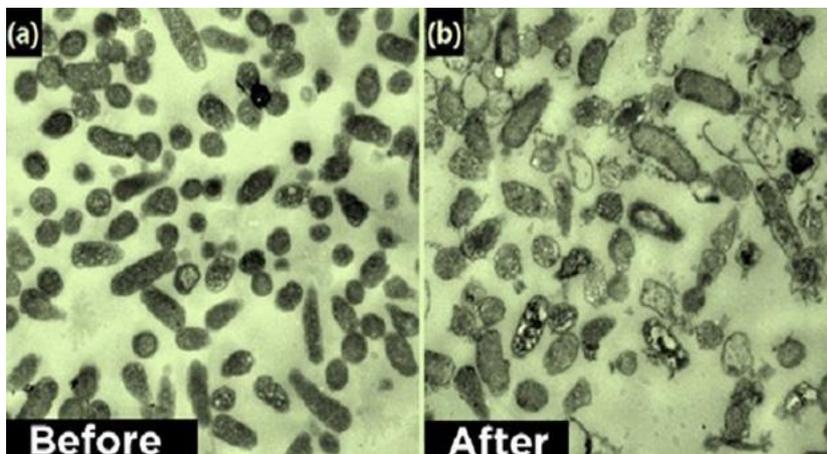
# 研究：癌細胞はカンナビス（大麻、マリファナ）に触れる と自殺する

THC に触れたがん細胞は増殖をやめ、自壊することを科学者が発見

【訳者注】これは、訳者の私に専門的知識があつて訳したものではない。およそこのようなことが現在、起こっており、これをどう考えるべきかという私の意図が、わかっていたければそれでよい。害はなくても、大麻を吸うことは犯罪であり、それが治療用であっても、不法ということになっているのは、なぜだろうか？ それは、その治療の大きな効果が、ビッグファーマを脅かすというだけではないだろう。それは、ここで何度も取り上げている、「彼ら」の反宇宙的調和の哲学につながる。彼らは、事実として、ホーリスティック医療家を、次々と大量に暗殺している。この世に病があれば、それに対応する自然物が必ずあるというような考え方を、彼らは許すことができない。彼らにとってそれは、非科学的な犯罪であり、薬は化学薬物しか存在しない。この世界は有機的調和（愛）でなく、無機的対立（敵対・征服）がその本質である。そして我々は、そういう彼らの教育に洗脳され、彼らに協力するように生きている。

Daniel Newton, [www.neonnettle.com](http://www.neonnettle.com)

May 29, 2018



2007年に発表されたハーバード大学チームの研究が、現在も、この研究を最も代表するものとなっている。

新しい科学研究が、がん細胞は、カンナビスにさらされると、「自分自身を食うことによって自殺する」ことを明らかにした。<http://www.neonnettle.com/tags/cannabis>

マドリッドの Complutense 大学の分子生物学者クリスティーナ・サンチェスは、マリファナ（大麻）の主たるサイケデリック成分である TetraHydroCannabinol (THC)は、健康な非腫瘍細胞はそのままにして、成長細胞の自殺を促進するという報告を、初めて行った。

この科学者の研究によると、THC にさらされたがん細胞は、実験室テストでも動物実験でも、その過程で増殖をやめ、自分自身を損傷することがわかった。

ハーバード大学チームの 2007 年の発見が、今でも、がん細胞と戦う THC の研究を代表するものとなっている。

Woked によれば、たった 3 週間の THC の投与が、マウスの肺がん腫瘍の発達を半分に抑え、がん病巣をもっと大幅に減少させることがわかった。<http://woked.co/cancer-commits-suicide-exposure-cannabis/>

Cannabinoids と呼ばれるカンナビスの化学成分は、体全体に、特に神経中枢と免疫組織に、薬理学的効果を及ぼすことを、活性化された特殊なリセプターが発見した。

市販されていて簡単に手に入る cannabinoid である、dronabinol や nabilone は、FDA（食品医薬品局）に認可された癌関係の副作用の治療薬である。

吸引したり食べたりすると、マリファナ・カンナビノイドは、食欲、食物消費、運動神経、生殖など、多くの生物学的機能を管理する、体の自然の endocannabinoid システムの内部に取り込まれる。

このことによって腫瘍細胞は、アポトーシス（プログラムされた細胞死）、すなわち自己破壊に追い込まれる。言い換えると、癌は自殺をする。

「細胞はいろいろな死に方をすることができ、カンナビノイド治療をすると、彼らはきれいな死に方をする、すなわち、自殺をする。

「カンナビスノイドの利点の一つは、彼らが特に、腫瘍細胞を狙うということである。

「彼らは、通常の、非腫瘍細胞に対しては、どんな毒性効果ももたず、これは、基本的

にあらゆるものをターゲットとする標準的な化学療法に対して、大きな利点である。

「私は、アメリカでは、なぜ、カンナビスが [表 1] の中に入っているのか、理解ができない。

「なぜなら、我々の研究だけでなく、他の多くの研究者の仕事からも、この植物が、非常に広範囲の治療的潜在能力をもっていることが、かなり明白だからである。」

連邦政府はごく最近、マリファナが、特別の種類のがん細胞を縮小させる、確かな薬効をもつことを認めた。

National Institute on Drug Abuse の、アップグレード情報ページで、医療用マリファナに関して、予想しなかった革命的な宣言がなされた。

NIDA（薬物乱用研究所）の声明はこう言っている：——「最近の動物調査研究によると、カンナビスは、がん細胞のあるものは殺し、他のものはサイズを縮小させることができることを、現実に示している。」

ある動物調査研究による証明は、カンナビスの植物全体からの抽出液が、最も重症の脳腫瘍の一つを、収縮させることができることを保証している。

マウスを使った調査研究では、これらの抽出液を、放射治療と併用したときには、放射の癌を殺す効果を増加させることが、証明されている。

科学者たちはまた、カンナビスの別の抽出物、CBD オイルもまた、がん細胞と戦う能力をもっていることを発見した。

CBD、すなわち **Cannabidiol** は、カンナビスの中に見つかった 113 以上の cannabinoid の一つである。

主たる phytocannabinoid である CBD が、この植物の抽出液の 40 パーセントまでを占めている。

CBD は、THC がもっているような、サイコ・アクティブな効果は全くもっていない。

がんと戦うことの他に、CBD オイルは、健康にとって、沢山の驚くべき利点をもっている

ことが、発見されている。

カンナビノイドは、不快の通る神経伝達路を遮ることによって、不快の調整に役立つことが、証拠によって明らかになっている。

「実験医学ジャーナル」に発表された 2012 年の研究によると、CBD は、ネズミにおいて、痛みを発することなしに、慢性の炎症と神経症的不快を、かなり改善することが発見された。

研究者の示唆するところでは、CBD や、マリファナの他の非サイコ・アクティブな成分は、慢性的な痛みの治療にとって、比類のないヒーリングの、代表的手段になるかもしれない。

2007 年、カナダで行われたメタ分析によると、CBD と THC を口に含んで吹き付けることによって、多くの、多発性硬化症（multiple sclerosis）の神経炎の痛みに対処することが、有効であることがわかった。・・・

（以下、数ページにわたって説明されている、CBD や THC の薬効については、省略する。）